# 100年企業グループとして、チーム日軽金は異次元の素材メーカーへ、サステナブルに成長し続けます

アルミニウム製錬の技術が発明されたのは19世紀初頭。それから約2世紀の歴史の中で、私たちの生活のあらゆる場面で用いられるようになったアルミニウムは、比較的『新しい』素材であるとも言えます。元を辿ればさまざまな源流を持つ当社グループですが、日本国内でのアルミニウム製錬を中心として発展を続けてきました。その後オイルショックを契機とした電力コストの高騰により製錬事業は厳しい環境となりました。このことがアルミニウムを核としたさまざまなビジネス展開につながり、事業分野のすそ野を広げる結果となりました。

こうした外部環境の変化を乗り越え、事業の変遷を重ねてきた歴史こそが、変化を恐れずに常に新しいお客様の『価値』を求めて進み続ける『異次元の素材メーカー』の礎となっています。当社グループはこの歴史を引継ぎながら、新生チーム日軽金として未来に向けての持続可能な事業活動を行うことで、これからも人々の暮らしの向上と地球環境の保護に貢献していきます。

売上高（億円）

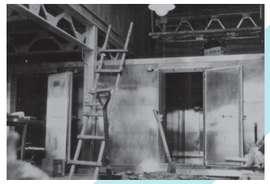
7,000
6,000
5,000
4,000
3,000
2,000
1,000
0

**1939年**
日本軽金属㈱設立
アルミニウム製錬スタート

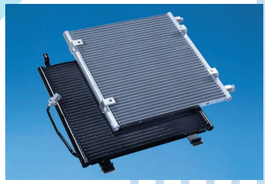
**1950年代**
アルミ製日用品が
急速に普及

**1960年代**
アルミサッシ、
トラック架装

**1970年代**
業務用冷蔵庫パネル、
公共景観製品

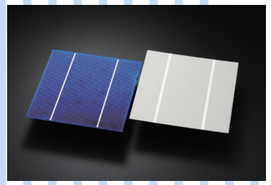


**1980年代**
電極箔、自動車用ホイール・熱交換器、メモリーディスク基板

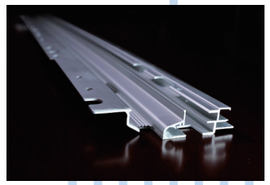


**1990年代**
二次合金事業（リサイクル）
自動車部品

**2000年代**
箔、パウダー・ペースト事業



**～2010年代**
海外展開（中国、東南アジア、インド、北米）



アルミニウム製錬会社としての発展
～1974年 創業・発展期

アルミニウム加工・関連製品への展開
1974年～ 事業拡大・転換期

グローバル展開の推進
2003年～ 海外事業展開

お客様の『価値』を追求する異次元の素材メーカーへ
2012年～ 持株会社体制

## 事業の歴史と意義

### 1939年（昭和14年）

**東京電燈㈱と古河電気工業㈱を中心とする出資によりアルミニウム製錬を目的に日本軽金属㈱設立**

大規模水力発電を持つアルミニウム製錬メーカーの誕生は、産業、生活にその用途を拡げつつあるアルミニウムの安定供給に大きく貢献しました。

### 1952年（昭和27年）

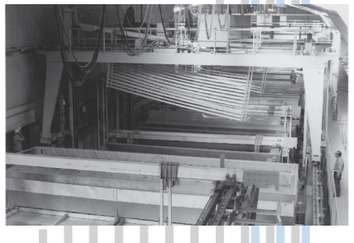
**カナダのアルミニウム・リミテッドと資本・技術提携合意**

世界的なアルミメジャーとの提携によりもたらされた世界最先端技術が後の新商品・新技術の基盤となり、高度経済成長期の急激な需要増に応えました。

### 1974年（昭和49年）

**日軽アルミ㈱を合併、日軽圧延㈱からの営業譲渡により、アルミ製品の総合一貫生産体制を確立**

オイルショックによる電気代の高騰により、アルミ製錬からアルミ加工を中心に事業転換が急速に進むことになりました。



### 1980年代

**国内アルミニウム製錬事業からの事実上の撤退、加工事業への転換が加速**

オイルショックの余波は続き、新潟、苫小牧での製錬事業からは完全撤退、蒲原製造所の製錬事業も大幅に縮小し、製錬事業からは事実上、撤退することになりました。

### 2003年（平成15年）

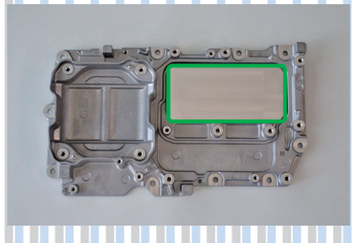
**東南アジア・中国事業の再編により、海外事業の本格展開がスタート**

アルキャン社との資本関係解消、東南アジア・中国事業の再編により、当社グループが主体的に海外事業を展開する体制が整えられました。

### 2012年（平成24年）～

**持株会社体制**

事業拡大期で勃興・成長した事業群を経営として統合し、横串によって連携強化したことにより、より高度でこまやかなユーザー対応が可能となる「チーム日軽金」が誕生しました。



日本軽金属㈱　日軽金グループ

※ 1948年以前については正確なデータがないため未記載としています。

1939　1952　1974　1980　2003　2012　2022（年）